

昔の暮らし聞き取り隊 聞き書き集①

平成25年12月発行

佐藤 ^{とう}藤作 ^{さく}さん

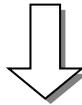
大正8年(1919年)4月30日生 94歳



喜茂別町教育委員会

「聞き書き」とは？

- ◇ 「聞き書き」とは、人から聞いた通りに書き取った記録のことです。
- ◇ 「聞き手」が「話し手」の方のお宅におじゃまして、お話をボイスレコーダーに録音します。
- ◇ 後でその録音を聞きながら、できるだけお話しされた内容や口調を生かして、話し言葉で文章にまとめます。
- ◇ それを本人に、確認や修正をしてもらいます。
- ◇ 「聞き手」の感想や批評は一切加えていません。



- ◎ 時代を共有したり、その人の経験から生きる知恵を学んだり、昔の暮らしを今に活かすことができるかもしれません。
- ◎ 地域を守り続けるため、お互いに助け合うことや支え合うことの大切さや楽しさを伝えてくれるかもしれません。

— 佐藤さんは、新潟の上越でお生まれになり、小学校卒業後上級学校に進学されましたね。

私は、大正8年4月30日に、新潟県中頸城郡春日村五智（現在の上越市）というところで生まれました。

小学校を卒業して上の学校に行くというときに、校長さんに師範学校（教員養成学校）に推薦を受けたのですが、経費は全部地方行政持ちだったのが、その頃から自家持ちになったんです。生家が貧乏な農家ですので、親も兄も学費の捻出ができない、できれば早く学校を出て就職してほしい、ということで新潟県立直江津農商学校（現：県立直江津中等教育学校）の商業科に入ったんです。当時としてはなかなか立派な学校でね、3年コースと5年コースがあるんですけど、私は乙種と言って3年で卒業しました。

剣道の強い学校でしたね。私も小学校時代から剣道やっていたんですが、入ってすぐ選手になりましたね、県の剣道大会で優勝したんです。

ほとんどの子どもたちは、少年時代は故郷でもって、高等小学校（現在の中学校2年）で終わっちゃうのに、中等学校（現在の高等学校相当）まで行かせてもらった。学校を卒業してからわずかな期間ですが会社勤めをし、農家でしたから農業の手伝いもしました。

— その後、陸軍に志願されていますが。

20歳（数え年）の時に志願しました。徴兵検査の前です。徴兵検査は21歳ですから。当時、日本の人口はどんどん満洲（①）に流れていましたから。私も、関東軍（②）と満洲に憧れ、軍人の道を歩もうと満洲の部隊、関東軍の独立守備隊歩兵第二大隊に昭和13年に入ったわけです。自分は同期よりも2年も早く軍隊に入っ

たんです。場所は奉天ほうてんにあったんです。入隊して直ぐに下士官候補者隊への入隊を勧められて、受験して、現役中に半年間ですが、関東軍司令部の下士官候補者隊に入隊し、12月25日教育修了、そこで歩兵伍長になり、勲八等の叙勲を受けて奉天に帰ってきて、新しい任地である鄭家屯ていかとんに行き、国境警備にあたりましてね。

任務の主たる目的は満鉄（南満洲鉄道）の守備だったんですが、それを通じまして、治安維持のために出動して満支国境（満洲～支那な（③）間国境）を通過して、支那ほくしの北支（④）の方まで行って、熱河省ねっかから承德しょうとくで昭和16年に陸軍軍曹になって、満支間の国境警備に従事したんです。



【満鉄の警備の様子】

承德に在駐中、昭和18年12月1日に陸軍曹長に任命され、更に昭和19年1月18日に勲七等瑞宝章を授与されました。正に士気天を衝く思いでした。その頃より関東軍が南方へ移動するんだと繁く噂が流れましたが、我々はなんら感ずることなく任務についていたところ、昭和19年4月に承德を出発、奉天から旅順着となり集結を終わりました。ここで初めて我々は南方ではなく北方へ行くんだとわかったのです。



【万里の長城】

部隊のざわめきをよそに、昭和19年4月29日に旅順を出発、南ではなく千島ちしま（⑤）ということで、軍用貨物列車で急遽朝鮮国境（⑥）を通過して釜山ぶさん（現：大韓民国釜山広域市）へ向かったのです。釜山から博多に上陸して、博多から小樽までは軍用普通列車。それから小樽港を出発しましてね、昭和19年5月に北千島、千島列島の一番向こう

の一番大きな島、幌筵島ばらむしるに上陸して、付近の警備をしつつ次に温禰古丹島おんねこたんに移動して、ここで1年間警備しました。そして、急遽終戦近くなってきたので、温禰古丹島を出発して小樽港に来て、さらに稚内の大岬で終戦を迎えたんです。千島に行くときに魚雷を受けて一緒に行った輸送船が沈没、帰りも同行した輸送船が沈没。アメリカの潜水艦に魚雷でやられたんです。稚内の一番先端の崖からふとに穴を掘って、そこで樺太（現：ロシア連邦サハリン州）に移動だと船で準備したんですけど、昭和20年4月の終わり頃にはこういうことが中止になって、間もなく稚内の突端の宗谷岬で終戦になりましたね。

- ※①満州国：現在の中国東北部。関東軍主導で1932年3月中華民国から独立し建国。清朝最後の皇帝、愛新覺羅溥儀が元首。1945年8月18日滅亡。
- ※②関東軍：大日本帝国陸軍の総軍の一つ。関東とは中国語で山海関東側、つまり満洲全体を指す。関東州は中国大連広域市のほぼ南半分。
- ※③支那：中華民国（現：中華人民共和国）に対して用いた地理的呼称。
- ※④北支：支那の北部地域に対して用いた地理的呼称
- ※⑤千島列島：日露和親条約（1855年）により、択捉島以南が日本領、樺太は混住地とされ、樺太・千島交換条約（1875年）により、樺太放棄の代償で全千島列島が日本領に、さらに、ポーツマス条約（1905年）により、南樺太が日本領となるが、サンフランシスコ平和条約（1951年）により、南樺太及び千島列島の権利を放棄。なお、南千島の島々を北方四島（北方領土）と呼び、千島列島ではなく北海道の属島として領有権を主張。幌筵島、択捉島、国

後島、色丹島以外は無人島。

※⑥朝鮮半島：韓国併合ニ関スル条約（1910年）により大日本帝国が大韓帝国を併合。ポツダム宣言受諾後（1945年8月14日）の朝鮮総督府降伏（同年9月9日）により日本統治が終焉し、北側をソ連が、南側をアメリカがそれぞれ占領。その後、北緯38度線を境に朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国としてそれぞれ独立し、朝鮮戦争に突入。1953年に休戦したが、現在も両国間に平和条約は結ばれていない。

一 軍隊での思い出を聞かせてください。

沢山あるんですが、2箇年次、伍長に任官して部隊に帰ってきて、初年兵教育のための命令が出まして、それが、九州、青森、四国の一部の兵隊120人位、2回目は沖縄県人に、合わせて240人位に新兵教育をしました。今でも、その人たちと文通やっていますが、もうほとんど亡くなりましたね。



【陸軍曹長時代】

それで、その教育中は涙もあり、病死もあり、北支に出たり入ったりしている間に戦死もあり。千島まで皆行きましたからね。伍長と軍曹の頃にですね。初年兵教育で、3ヶ月間、助教（教官）を務めたのが思い出ですね。さらに一番の思い出は、青年時代の一時期、昭和13年から20年までの7年間軍隊に命を捧げたことですかね。帰ってきてからこの経験、心構えが基本になって仕事もどんどん無理もきいたということになりますね。

北支と満洲の間を行き来しているうちに、昭和19年1月19日

に勲七等瑞宝章を受けたんです。その時、上官を含む幹部が、大きな神社がありましてね、そこへ兵隊をみな連れて行って、私が席に座らせられて兵隊皆から榮譽の捧げ銃（⑦）をされました。ありがたかったね。今でも目に浮かぶ。

その後承德を出発して旅順にきて千島に向かうわけです。旅順につくまで南方行きとばかり思っていた。皆、指揮官まで。その一部は教育した兵隊さん達の故郷である沖縄にも行ったんですが、全滅しました。私らも、もう一つの大隊が行ったんですが、そこにいるうちに、なんか空気が変になったんです。みんな南に行きたくてしょうがなかった。泳げるから。しかし、北へ、千島列島のようなぞと。

※⑦捧げ銃：軍隊の敬礼の一つ。

— 軍隊に徴兵されて満期除隊の時に上等兵で帰ってくれば一目置かれたそうですね。佐藤さんは曹長までなられています。

私のように志願で行って、陸軍教導学校（⑧）に行き卒業する。そして私のように軍曹、曹長になる。あと2年位で准尉になる。その前に曹長から士官学校を受ける規定があるんですよ。今の自衛隊でも英語は重要視しますが、まあ旧制の中等学校である程度英語もできないと。ところがなかなかねえ、私のように商業学校ではねえ。そして准尉まで行って3年で予備少尉になる。その前に、何か功績があると早めに少尉になる人もいる、准尉でなく、曹長から将校になる、見習い士官になってね。そういう規定がありますけど、私の場合、少し早めに進級したら准尉や少尉になっていたんじゃないでしょうかね。

※⑧陸軍教導学校：下士官を養成する日本陸軍の教育機関。

— 小樽に移動した時の所属部隊は、大きな部隊でしたか？

小樽に来たうちの部隊は大隊で、2個大隊でした。1個大隊が4個中隊。もう少し大きくしたら連隊になる。2個大隊が一緒になって釜山から連絡船で博多に上陸し、博多から青森までは軍用列車で、青森からは連絡船で函館へ、そこからまた軍用列車で小樽まで来て、小樽で3つに分かれて、兵舎にするためグラウンドを全部幕舎にしました。

小樽に来るまでどこに行くか誰もわからない。指揮官にも行き先を知らされていない。小樽に来て、輸送船が来て、どこに行くかやっと発表になった。戦略的にはソ連（ソビエト社会主義共和国連邦。1991年解体消滅。）への備えですが、私らが行動している間は、ソ連は日本との不可侵条約（⑨）で一切行動していませんでした。

※⑨日ソ中立条約：日本とソ連の間で締結（1941年）。正式名称は大日本帝国及ソヴィエト社会主義共和国連邦間中立条約。相互不可侵及び、一方が第三国の軍事行動の対象になった場合の他方の中立などを定めた全4条の条約本文、及び満洲国とモンゴル人民共和国それぞれの領土保全と相互不可侵を謳った声明書から成る。

— 千島での様子を聞かせてください。

幌筵島には、旅館、製造工場、海軍の工場的なものもありましたけど、温禰古丹島には一切ありませんでした。

ここにいるときに、アメリカの空爆を2回受けました。このときも、兵隊が死ななくてよかったなど今でも思います。自分の隊

の副食は自分でとりなさいと。したがって、船に乗っても艀も漕げないのが殆どですから、まして発動機についてる船なんて与えられません。全部艀で漕ぐ船です。これで行って鱈を釣る。これがまた釣れるんです。針を垂らせばいくらでも釣れる。常にいっぱいなんです。釣っているうちに敵の飛行機がもう4機も5機も来て機銃掃射を。

私と隊長は、隊の総務関係の仕事をしていましたから。私は下士官の上でしたから。

それで、隊長と二人で丘で魚釣りの監視をして、常に兵隊6人位ついて。そしたら、向こうの川に敵機が現れるのが見えてね。機銃掃射でやってくるんで、もう気が気じゃなくてね。早く帰れ、飛び込めって。泳げなくて飛び込めないでオロオロしてる奴がいて、機銃掃射で船に穴があいて、自分たちはそんな危険な中を助け舟を出して、それで6人全員助けたっていう、そういう危険なこともありましたね。

— 千島を出て小樽ということは、全部撤収だったということですね。

もう、この島全部撤収して、樺太に行くべく稚内に集結したわけです。

— この後、ソ連が侵攻してきますよね。

もう、日本の上層部はソ連が来るってことを察したから、島を守る高射砲隊、戦車、港に一番悪い大砲や兵隊もギリギリ残して、撤収してしまった。

ある日突然ソ連軍が大挙してあがってきた。残った日本軍はそこで全滅したけれども、ソ連兵の損害も大きかったんです。

— この頃、食糧事情はどうでしたか。

兵糧として送ってはくるんですが、肉なんてなかったです。北海道の生産者から来たわけです。満洲の時は朝鮮の方からでした。内地の物は南方に行きましたから。したがって、朝鮮の農産物を仕入れたんですね。千島に行ったらそんなものはありませんのでね。米は備蓄がありましたね。あとは鱈釣りしたり、たまに兎を見つけて。ここで、1年ちよつとの間おりました。

— 弾薬はありましたか。

弾はありました。私たちの部隊は歩兵でしたので、砲兵部隊の一分隊だけ配属してもらえましてね。それは配下にあつたんですよ。軽機関銃とかも。

— 軍人の士気はどうでしたか。

もう現役ばかりですから士気は高かったです。当時、九州男児は元気が良かったしね、立派でしたよ。

— 戦争が終わるころ、指揮命令に反する態度をとる者はいなかったですか。

ゼロですね。そういう関係は全く無いです。中間幹部は吊るし上げられる位に士気が満帆としていましたね。最後に、稚内で別れる時に、もう帰りたくないって。その中に、朝鮮出身の兵隊が私の直接すぐそばに7人。そのうちの1人が京都帝国大学（現：京都大学）の卒業生。京城（⑩）の中等学校を出たのが3人かな。

7人全員が高学歴だったんです。射撃は上手い、銃剣術は上手い。どこで習ったのって聞いたら家庭でって。私の部隊は、朝鮮人もみんな可愛がっていました。なので、帰りたくないと言っていました。

※⑩京城府：日本統治時代の朝鮮・京城府。終戦後、大韓民国の独立により首都・ソウル特別市になる。

— 小樽港に上陸されてから、稚内まで行ったのですね。

汽車で行きました。稚内の平野に幕舎を張って駐屯しました。

— 終戦の日（8月15日）の様子はどうでしたか。

前の日に命令がきましたね。何時から天皇陛下のお言葉（玉音放送）があるから聞くようにと。もう、稚内は風が強くてバタバタするでしょ。全隊員は歩いて10分の崖を下ると、風除けのような崖があって、そこへ集まる。ところが、下へ行けば行くほど無線が入りにくい。さりとて中継所もない。通信部隊は上の方におって、我々は途中のところにおったので、拡声器で流してね。そして玉音放送を聴いて、みんなそこで泣くやら。もうその日のうちに、うちの隊員ではないけども、将校3人が拳銃自殺したね。その上の指揮命令の隊も来ていましたが。

そして、いよいよ復員（⑪）するための事務が大変なんですよ。復員する者をどのように何で帰すか。まず一番先に朝鮮人を送る。次に遠いところから帰すというような形を、15日以降ずっと続けていましたね。その時、私は27歳（数え年）でした。

※⑪復員：軍隊の体制を「戦時」から「平時」に戻し、兵を動

員状態から服務待機に戻すこと。

— 順次、そのように武装解除をして？

ええもう、その日のうちに武装解除の情報、軍部から、銃はこうやりなさい、弾薬はこう処理しなさい。安心するような、無念な、複雑な気持ちでしたね。

— 9月に復員されていますが、将来のことを考えられましたか。

それはね、とにかく家に帰ってみる、ということだったんですが、縁あって、喜茂別町のクレードル興農(12)で、「今兵隊に出征していて人が足りないので、人が欲しいんですよ。」と。こんなことでした。

それから、各中隊小隊にね、道内に残って就職希望の者は申し出よと。私の場合、特に中隊本部の指揮におったもんだから帰る訳には行かないんですよ。後始末の責任者ですから。九州、沖縄の連中はみんな帰りたという希望でしたね。中には、稚内の近くの人達と僅かな間に交流があったんだね。それでそこに来てくれとか。稚内とか音威子府とか3人が希望しました。稚内で店屋の主人が、あの人をって希望する、というような格好で、1人希望しました。そんなことで、やっぱり15人位は就職の希望がありましたね。

そして、9月に入ってそういう仕事が終わって、墓参りに行ってこいと言われました。まだ稚内の本部におったので、あんたも行ってきた方がよいぞと。それで一旦帰って、親と面会して、お墓参りしているうちに、クレードル興農の社長の丸子さん(13)から「採用決定。すぐお帰りください。」という電報が入ったんです。全然私は丸子さんと面識が無かったんです。私は農家の三男

坊でもあるし、軍隊の方に帰っても大変だなあという気持ちもあったのか。今まで喜茂別のクレードル興農の担当者とは電話だけで面接はありませんでした。履歴書を会社に送って、丸子さんからそういう電報があったので、急遽、稚内まで戻って来ないでいいからってということで、クレードル興農に行って面接して、そこに決めましたが、会社の本部や工場ではなく喜茂別村農業会(⑭)というところに勤めることになりました。私は、それまで喜茂別に来たことは一度もなかったんです。

※⑫クレードル興農：喜茂別アスパラガス耕作組合と岩内町の日本アスパラガス(株)による栽培契約（1929年）が発端。戦後、北海道農業会喜茂別工場として出発するが、喜茂別大火により第一・第二工場全てを焼失。翌月、羊蹄山麓6農協の出資により、北海道農村工業協同(株)設立。1957年現社名。1969年3月会社更生法適用、1984年3月更生手続き完了。

※⑬丸子 斉 氏：本町の名誉町民で、名誉町民は次の2名のみ。
故 丸子 斉（クレードル興農創始者）
故 菊地 久治（元町長、町剣連創設者）

※⑭喜茂別村農業会：旧喜茂別農協の前身。昭和23年農協法公布により、喜茂別村農業協同組合に移行。平成9年喜茂別農協と周辺7農協が合併、ようてい農業協同組合となる。

私の上官が、私の性格からみて、また、三男坊だからとかそんなところまでみてくれて、実家でも心配ないだろうということで、9月18日に就職したわけです。

みんな立派な上官でしたね。私の上の人は福島の人が多かった

ね。みんなもう亡くなりましたけどね。

まあ、復員して、お墓参りに行ってきてくださいという日、9月7日が復員の日ですね。その間に行って帰ってきて1週間位の間にね、残務整理はほとんど終わってましたね。

墓参りは、稚内から函館まで汽車で、函館からは漁船で青森まで、青森から直江津までは汽車で行きました。

帰ったとき、実家に入る前に、県で一番大きな県立居多^{こた}神社に行ってお参りしました。

一 事前に、実家に帰ることは伝えていましたか。

前もって、何日頃帰ると電話をかけました。軍用電話です。中継してもらってね。

直江津付近に来たら、出征したころのことを思い出しました。最初に満州に赴任するときに、直江津駅で汽車が止まったわけです。軍用列車が。したら駅員が汽車を点検に来るので。そこへ行くときは貨物列車でなくて普通の列車になっとった。以前、旅順から朝鮮国境を越えて釜山まで来るには貨物列車でしたけど。

そのとき、車掌が来て「あなたはどこですか。」と聞かれたから、「春日村の居多、春日神社でなく居多神社のそばだよ。」って。「ああ、それなら始終行ってます。」って。私は「そこの佐藤とって、兄二人も戦争に行って、私は満洲です。」「ああそうですか。」って言ってるうちに、「なんか言付けありましたら聞きますよ。」って言われました。それで、「したら貯金通帳頼むわ。」って。それから「書いた物と貯金通帳とハンコを実家まで届けて。」と。後から親に聞くと、その翌日、その車掌が「息子さんと会いました。こういうものを預かりました。」って、持ってきたと。親は泣いて喜んだそうです。そんなこともありましたね。

喜茂別では、縁あって風呂屋をやった三瓶さんって、郵便局の手前の、あそこの親父さん足悪くて兵隊に行けないけど兄弟みんな兵隊に行ってる。そこへ訪ねて、もうびっくりして上がれ上がれっていうことで。そこで一晩泊まって翌日に丸子さんのところに面会に行きました。丸子さんは私以上に背が高いんですけど、いくつになったとか、弾に当たったことありますかとか聞かれて。私は、逃げましたからって言ったら、「わあ。」って笑ったけど。あなたは農業会に採用しますからとなったんです。やっぱり農商学校商業科を出たのが良かったんですね。それで、風呂屋の家に下宿させてもらって仕事に通っていました。

当時クレードル興農は、私の先輩の人たちは復員していなかったから、少ない人員で大変でした。男はほとんどいない。技術員も心身障害者か、或いは高齢者ばかり。それでも日本一の企業でした。

— 当時のクレードルの製品は、どんなものがありましたか？

缶詰はアスパラとスイートコーン。今のような旨いものではないけどね。ただ、とうきびの。それとジャガイモの煮たような物とか。まあ、主にアスパラですね。

経営的には良かったんですが、昭和 43 年頃に赤字が出て翌年に倒産しました。私は昭和 49 年に農協を定年退職して、その後始末として、私が農協代表ということでクレードル興農に行きました。随分苦勞しましたね。丸子さんにも苦勞かけたわ。

— 農協に勤めはじめたころの思い出を聞かせてください。

昭和 20 年から昭和 49 年に参事で退職するまで、総務の事務専門でしたね。

その中で、昭和 23 年 5 月 11 日に喜茂別大火があったんですが、火元が家の隣だったんです。丸焼けになって、子供と家内を逃がして、私は窓から飛び降りて助かったんです。

大火があった数日前に鈴川支所への転勤を命じられましたので、引越しの準備をしておりましたが、2階住まいのため何も荷物を運び出せませんでした。家内は長女をおぶって、やっと逃げ出しましたが入り口から火が入ってくるので、私は布団を投げ出しその上に窓から飛び降りたんです。住んでいた住居は旧新田旅館で、喜茂別では一番大きく立派な旅館でした。そこを農協で借りて「羊蹄荘」と命名し、職員のアパートとして8家族が住んでおりましたが、全員避難しました。

クレードル興農の入口の伊藤(商店)さんの隣が農協の蹄鉄工場だったんです。その主任が家内の父親です。

それこそ、着の身着のまま、一気に燃えましたから。家内の父、母、妹、弟、私たち夫婦、子供たちの8人で転勤先の鈴川の家流れ込んだんです。もう大変でしたね。8人でごろ寝でしたね。



鈴川支所に赴任した翌年の9月24日には尻別川の大洪水があつて、鈴川支所の畳の上まで激流が来ました。当時駅前に貯木場がありまして、その木が流れて家にぶつかつて、壁に穴があいたりして、もう逃げるわけに行かなくて、私は長女をおぶって家内と一緒に玄関から出ようとしたわけ。そしたら橋が流されて、激流が襲ってきて自分たちは倒れたんです。もう駄目かなと思つたら、ちょうど消防団員が来てくれて、助かったんです。

その時は、本当に多くの方にお世話になりました。地区中の方が茶碗とか家財道具を義援品として持ってきてくれました。箸の

一本に至るまで持ってきていただきました。双葉からも駆けつけてくれましたし。ありがたかったですね。

こういう危険なことが、立て続けに2回もありましたね。

— 農協でのスタートは大変でしたね。

ええ。職員もそんなにいません。支所も機構改革による新施設としてできて、私が主任命令もらったんですから。で、向こうに行く荷物運びしなきゃならんなあとしている晩に大火になったんです。だから荷造りしたまま。体だけ。寝起きする場所だけあった。家内の一家と転がり込んだ。父親はいい人でねえ。煙草の一本でも大切に作る儉約家で、お酒は一滴も飲めなかったね。鈴川には13年位おりましたね。

あそこで、鈴川周辺の農家の担当者になりましたから。まず自分の家のことは家内に任せて、農家回りをするにも自転車もないし、軍装と同じように巻脚半を足にピシッと巻いて、ばん馬を借りて双葉の山の奥、御園・金山の奥、鈴川と留寿都の境、旭野の方まで畑がありましたから、全部1軒残らず回りましたね。そして経営の状況や、営農のことなどいろいろな話を聞きました。農家の人たちは私よりもみんな先輩ばかり、お父さん方でした。

私が歩いてみたら、いまだに復員しない、帰ってこない家がずいぶんありました。終戦後2年も経っているのに。

— 農家を回られて、どのような指導をされていましたか。

作っていたのは馬鈴薯、麦類、大豆、秋になると大根、人参。驚いたのは、私は越後の貧農のせがれでしたけど、何ぼ貧農でもこんなことないわなっていうような、厳しい生活状況でしたね。家は当時、みんなバラック (15) ですから。訊ねていくと、まあ

上がれということで、お婆ちゃんやお母さんはお茶をだしてくれますが、お湯沸かす前に、かっぽかっぽかっぽかっぽってポンプから水が上がってね、そのポンプの向こう側は壁が立てに割れたままだから、外が見える。そういう家がほとんどですから。特に周辺地区に行きますとね。これは何とかしなきゃならんと思いました。

※⑮バラック：空き地や災害後の焼け跡などに建設される仮設建築物のこと。

私が当時付き合っていた人達は爺ちゃん、それから一部若いお父さん方だったが、今いる人達はその子供なんです。

当時の私との話を、父親から見聞きして知っているんだね。軍隊では国のためと思ってね、死に物狂いでそれこそやりましたわ。兵士も一心同体で、今でも何人か生きている兵隊はそのように思っていますけどね。農家の所得を上げるために何とかならんかなと、いう風に思ったね。

爺ちゃん婆ちゃんたち、これはもう全員で、私と同じぐらいの、当時の青年団、農協の青年部ができる前に、その若い人達をできるだけ集めて、私は夜遅くまで話し合いをやってきましたわ。みんな一生懸命だったね。

それで、ご存知のように、種芋耕作者が、馬鈴薯では種芋耕作が一番よかった。収入もあがるし。ところが、種芋がだめだったら二束三文の値段になるわけですよ。

当時の農家では色々そういうこと、管理の厳正さが分からないで種芋検査を受けたもんだから、自分で畑を見てまわっても、もったいなくて悪いものを抜けないんだわ。病気のようなものとかをね。農林省の防疫員が派遣されて、町からは補助員、私は農協からの補助員ですからプロの腕前を持っていなきゃならない。

そのための講習会には随分出ましたしね。そこの真狩の種苗場、あそこにも随分勉強に行きました。それから、ホクレン倶知安支所は農協の本家ですから、そこでも随分勉強しました。ところが、全町の畑の、最初はたいしたこと無かったけれども、あっちでポツン、こっちでポツンとバイラス病が出てきて、ああ心配だなと思ったら、全圃場^{ほじょう}に広がってきた。これには強く厳しく、しっかり防除して、早めに処理しないと全滅になりますよと指導しなければならなかった。ところが、農協の職員も、いざ抜き取れということになると、農家の気持ちがわかっているから、なかなか言えないわね。そのうちに抜け抜かないであっちこっち仲たがいもし始めたので、なかなか強いことを言えなかった。そしたら、阿部清さん（当時の農協組合長）、あの人も技術上がりですから、俺らのやっていること、苦労していることも分かっているもんだから、ある程度まで厳しく指導してやってくれた。組合長から、あなただったら、農家の言うことを何でも呑むことをしないでらうということで。始終みんなを集めては喧嘩もしたけれど、疑わしいものは抜きなさい、おかしいなと思ったら抜きなさいと。ところが、農家は一本抜いたら大変になると、それでなくても生活が苦しいですから抜きたがらない。それを、「おっかない顔しなきゃ駄目だわ。」という連中もいるしさ。「俺おっかない顔かい？」とか自分に言って。軍曹やっているときは、眼は鋭かったけれど。

私は剣道三段で、あの当時、喜茂別に剣道の師範なんて来る人いないですから。そしたら、喜茂別高校の榮花喜久雄先生、榮花豊さんの叔父さん。あの人が先生で、あのころ七段か六段で、喜茂別剣道連盟作って、菊地久治さん（当時の喜茂別町長）が顧問かな。で私の腕前は三段。「佐藤支所長は三段」って免許状作って、これ家に飾ってある。銃剣道は五段で、関東軍の銃剣道の大会があって、ものの見事に私優勝しているんです。そんなこともあっ

て、顔つきはおっかなかったんだねえ。

そんなことで、馬鈴薯を何とかしなきゃということで、農協をあげて、全圃場合格のための手ほどきを、そのためには厳しいことを実行しなきゃということで、徹底して話を進めました。それが効いたのかね、今度私の方が「それまだいいんでないか。」というのまで全部抜いたね。それで、2年か3年目、農林省の技術員もびっくりした。「こんなに徹底している圃場は北海道中にないわ。去年までどうなるか分からなかったのに、今年全圃場合格だ。」と。「あなたのやり方で心配ない。」と言われました。そして、ウイルス病の名前が私の下の名前を取って、トウサクウイルスって呼ばれました。農林省の技術誌に載っているそうです。私は見たこと無いですけど。トウサクウイルスはこの程度のものだぞという、この程度になっているものを排除すれば心配ないよと。これはなかなか立派な技術でしたね。

そこで、全圃場一筆残らず合格。一点も落伍がないだもんだから、みんなが私のご機嫌が良く見える感じがしたらしくてね、トウサクウイルスからとって、みんな俺のことを佐藤さんではなく、藤作さんと呼ぶようになった。小さな子どもまで。

— 農家さんとの信頼関係を作る努力は大変だったようですね。

そうですね。私は貧農、貧乏百姓の生まれですから、余計に農業に関して思いが強かったですね。上尻別や尻別、留産、比羅岡、相川その他全部落（現在は地区と呼称）からも何かあったら呼ばれていました。

— ご自身も農家のお生まれで、喜茂別の農家の暮らしは厳しかった。農家の苦しい生活状況を何とか向上させなければならない。

それが仕事のエネルギーになったのですね。

それはもうそうですね。そんなこともあって、仲人も随分やらせてもらった。全部で 20 何回やっているんですよ。みんなもう 50 何歳になっていますけどね。

そのあと、鈴川支所から本部に戻って、今度は総務部の担当になるんですけど。当時の農協の経営状態は立派な経営内容でしたね、トウサクバイラスを直した時点から。クレードル興農は赤字で倒れたけど、農協は小さいながらも健全経営でしたね。しかし、もう組合員の数は、私の現役時代の半分になりましたね。

また、退職後も色々お手伝いさせてもらった中で、「農家の税金関係の事務処理を頼むから監督してほしい。」ということで、請われて 10 年位やりましたね。当時の農協の 3 階で。農業者の青色申告の指導です。

— 昔から気をつけてきたことや、健康づくりの秘訣はありますか。

体を動かすということで、ラジオ体操です。

20 歳の時に軍隊に行って、朝昼晩と陸軍体操をやっていて、復員し喜茂別に来て鈴川に赴任した際、子どもたちのラジオ体操が家の前（農協支所の前）で始まったの。私は陸軍体操を継続してやっていましたが、私の子どもが小学校 1 年になってからラジオ体操に切り替えて、今日まで 70 年以上続けています。家内も始めて 15 年位になります。

このことと、現役時代はできなかったことですが、自然に身を任せた生活をする、例えば暗くなったら寝て、明るくなったら起きる生活です。退職してからそれをずっと続けています。今は午後 6 時 30 分頃に寝て午前 4 時過ぎには起きていますから、10 時間近く寝ています。

食事も、朝昼晩欠かさず、50回以上咀嚼しています。軍隊時代からですね。軍隊の時の「丸飲みだー！」って時は別ですけど。今でも、きちんと噛んでいます。歯磨きも食べたらかちんとしています。だから歯も丈夫です。歯は全て、31本とも自分の歯です。

それと、昔は、たわしで、今はタオルで乾布摩擦をやっています。5分位ですね。心臓より遠い方から近い方に向けてやっています。これも軍隊の時から続けています。

それから酒。農協時代、農家回りしたらね、俺と酒を飲まない豆を売らんぞとか、そういった冗談をあちこちで言われる程でした。ですから付き合うためにアルコール度数の低い酒をとということで、農協時代はビールしか飲まなかったけど、それでも60歳過ぎてからは若い頃の10分の1位しか飲めなくなったね。今では日本酒をせいぜい1合位ですかね。軍隊の頃は、何が起きるかわからなかったから、まず酒は飲まなかったね。煙草も一切吸いません。

一 体は若い頃から丈夫だったのですか。

ええ、それはもう。軍隊では銃剣道をやっていましたが、私の部隊では一番でしたね。私が下士官候補者の学校にいる時に銃剣道の大会で優勝したのでびっくりして原隊に帰ってきたら、まもなく武道学校を卒業した将校がうちの部隊に赴任してきたんです。しかし、これにはもうかなわなかったよね。また、銃剣術をする体格が良い少尉がいて、兵隊に特別に教えてくれていたんです。ところが、俺とやったら全然駄目なんだわ。その後その少尉から、「佐藤曹長、銃剣術の指導の時は頼みます。」って言われました。当時の日本ではこれの専門の大学とかもあったから、凄かったね。

— **今でも健康のために歩いていらっしゃいますか。**

ええ。今は昔の半分の距離にしましたけどね。

— **お話をお伺いして、若いときの経験が今日までずっと活きていることを感じました。**

貴重なお話をお伺いし、ありがとうございました。



- ◎ 佐藤さんは挨拶などの原稿を今でも大切に保管されています。
その中の一部を紹介します。

(1) 媒酌人としての挨拶 17 件（農業者、クレードル興農職員、
商工業者）

- ・「人生はバラ色の花をしきつめた淡々とした道を行くようなわけにはいかない。お互いに真心をもつと立派な家庭を築き上げることができる。それが仕事の上にもプラスして生成発展することは疑いのないものであります。
- ・農業に対するひたむきな情熱を有しており、過疎化の波にもまれ、離農相次ぐ中であって本当に力強く頼もしく感じておりますことは、私のみでないと思います。

(2) 結婚披露宴における祝辞 15 件（農業者、クレードル興農
職員他）

(3) 仕事関係の祝辞、あいさつ 多数

○喜茂別農民同盟第 2 1 回定期総会における喜茂別農協参事と
してのあいさつ (昭和 43 年 1 月 21 日)

本年度初の理事会(農協)で、今年の経営の基本となるべき事項を協議いたしました結果、全ての業務は農業所得を向上するために之を律し、且つ行政と農政の不離一体化を図り、更に内部体制の確立を期し、徹底した職員の業務の研鑽を行い併せて組合の業務内容を組合員に周知するための広報活動を活発にし、組合員との密着化を図っていく考えでございます。

○クレードル興農(株)常務取締役として昭和51年業務始めの
あいさつ (昭和51年1月5日)

いたずらに不安感、危機感のみいだいていたのでは進歩も向上もありえないわけで、現実には現実として率直に受け、会社の経営計画に基づいて団結を強固にし、お互いに信頼しあい自己の責務を全うするならば必ずやこの難局を乗り切れるものと確信するものでございます。……一、二申し上げ社員各位のご協力を得たいと存じます。

① 積極的に責任を持って自己の職務を遂行すること

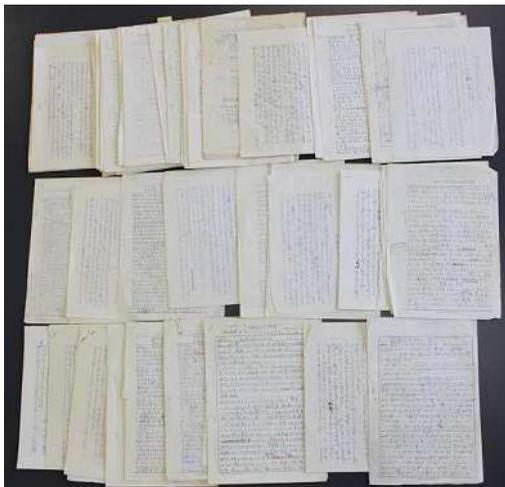
② 事故の絶無を期すること

③ 社員相互の信頼度を深め、常に和を忘れるな

社員全員の総合力の結集が仕事の成果となってあらわれるので、細かく動く者大きく動く者、縦に動く者、横に動く者、円く動く者、互いの分担業務を和やかにこなしてもらいたい。

④ 会社の秘密保持に努めること

⑤ 資材及び各種費用の節減に努めること



大切に保管されている挨拶などの原稿

(4) クレール興農(株)常務取締役就任直後における意見具申

(抜粋)

(昭和 49 年 8 月 20 日)

要 旨

当社が債権者各位並びに関係機関の絶大なる協力の下に更正会社として発足して5年を経過し、更正計画を超す実績を収めてきたが、今年には当社の基幹事業であるアスパラガス缶詰製造は近年稀な冷温のため原料減収となり、計画の80%に止まったことはまことに遺憾であった。これがため総合収益に大きな差を生ずることと思われる。更に社内に於ける特異な内部事情により幹部職員の生産意欲低下し、社内全体が沈鬱した空気が充満している現状にあり、このまま推移した場合遠からず経営の危機到来すること必至と考えられるので、速やかに対策を講ずるべきである。

主な対応策

1. 今後、事業計画必達を期するとともにアスパラガス事業の落ち込みの復活に努力する。
2. 工場の整理統合による合理化を行い、経営の恒久的安定を計る。
3. 留寿都農協及び耕作者対策
4. 機構改革を行い業務の合理化を計る。
5. 社内の団結を促進し業績向上に努める。
6. 機構上の人員配置を合理的に行うこと。

年 表

年	月	日	軍歴・職歴	備考
大正				
8	4	30	新潟県中頸城郡春日村で出生	1917(大6) ロシア革命
昭和				
7	4	1	新潟県立直江津農商学校商業科入学	1931(昭6) 満州事変
10	3	31	直江津農商学校卒業	1937(昭12) 日中戦争
13	3	1	現役志願兵として関東軍独立守備隊歩兵第2大隊に入営(奉天)	1938(昭13) 国家総動員法
	9	1	歩兵1等兵	
14	3	11	歩兵上等兵	
	8	5	関東軍下士官候補者隊入隊	
15	1	1	任歩兵伍長	1940(昭15)
	4	29	勲八等白色桐葉章並びに支那事変従軍記章授与される	日独伊三国同盟
16	1	1	任陸軍軍曹	1941(昭16)12.8
18	12	1	任陸軍曹長	真珠湾攻撃
19	1	18	勲七等瑞宝章授与される	
20	8	15	終戦(稚内大岬)	ポツダム宣言
	9	7	復員	受諾
	9	18	喜茂別村農業会就職	
23	3		農業協同組合法公布により喜茂別町農業協同組合に身分継承	
49	4		喜茂別町農業協同組合定年退職(参事)	
	4		クレードル興農株式会社常務取締役就任	
53	4		クレードル興農株式会社常務取締役退任	
53	9		社会福祉法人札幌大蔵福社会勤務	

年	月	日	軍歴・職歴	備考
54	1		社会福祉法人札幌大蔵福祉会喜茂別双葉学園園長就任	
55	3		社会福祉法人札幌大蔵福祉会喜茂別双葉学園園長退任	
56	2		喜茂別町商工会事務局長就任	
60	3		喜茂別町商工会事務局長退任	

年	月	日	公職歴
昭和 32 33	5 5		喜茂別消防団第4分団長
37 49	4 3		喜茂別町社会教育委員
40 42	1 1		喜茂別町社会福祉協議会副会長
44 55	7 7		喜茂別町農業委員
50 55	4 3		喜茂別町国民健康保険運営協議会々長
51 平成 2	4 3		喜茂別町農村総合整備推進協議会委員
54 59	4 3		喜茂別町中山峠健民センター運営委員長
58 60	12 3		喜茂別町観光協会理事
60 11	4 3		喜茂別町民生委員推薦委員
60	3		北海道軍恩連盟喜茂別支部長
60 11	4 3		総務庁行政相談委員

年	月	日	公職歴
61 7	4 6		法務省人権擁護委員
元 9	10 9		喜茂別町新町史編纂委員会副委員長
7 11	7 3		喜茂別町行政改革推進委員
8 9	1 3		喜茂別町廃棄物処理に関する研究会委員
8 9	8 3		喜茂別町農業農村活性化推進機構委員

年	月	日	表彰歴
45	3		農業功労者として北農中央会より表彰状授与
62	5		北海道管区行政監察局長より感謝状授与
元	6		札幌人権擁護委員連合会長より感謝状授与
元	6		軍恩連盟全国連合会長より表彰状授与
3	1		喜茂別町自治功労者として表彰状授与
4	7		札幌法務局長より感謝状授与
5	5		北海道行政相談連合協議会会長より感謝状授与
6	6		全国人権擁護委員連合会長より表彰状授与
7	7		法務大臣より感謝状授与
8	5		北海道管区行政監察局長より表彰状授与
10	10		総務庁長官より表彰状授与
11	4		総務庁長官より感謝状授与
25	5		喜茂別町商工会長より感謝状授与



人と自然がきらめく町

きもべつ